【５歳児　１２月の事例】

行事をきっかけにして、遊びの見通しをもって協力して活動する

「たこ焼き屋さん、いいと思うよ」

① お店屋さんごっこの遊びが始まり、どのようなお店にしたいか、クラスで話し合うと、「たこ焼き屋さんがやりたい」というＡ児の提案に賛同する幼児が多かった。

② さっそく必要なものを話し合うと、「たこ焼きはこの紙を丸めて作ろう」「大きさはどれくらいかな」「青のりは折り紙を細かく切って…」「ショウガもいるよ」「鰹節も」「温度は２００度くらいってママが言っていたよ」「箸置きもいるね」等、それぞれが思いついたイメージを伝え、確認し合った。

③ 「箸置き、僕作っていい」とＡ児が言うと、「僕はたこ焼き器作る」とＢ児が引き受けた。「じゃあ、一緒に作ろうぜ」とＣ児が加わると、「じゃあ、私は鰹節とショウガを作ろっかな」とＤ児がつぶやき、それぞれが自分の役割を決めた。

④ 次の日。たこ焼き屋へ行ってきた幼児が、エプロン、メニュー表などがあったことをみんなに提案したことで、足りないものを考え直すことになった。口々に思いついたことを言うので、保育者が「一度、ちょっとお店をやってみる」と提案し、役に分かれて、試しに売り買いをしてみることになった。実際に、紙を丸め、たこ焼きを作って焼く真似をしていたが、「ソースはどうしよう」「絵具でいいんじゃあないかな」「その場で塗ると、ベチャベチャになるし」と困ったことも出てきた。保育者が「どうしたらいいかな」と、言葉を添えて待つと、すぐにD児が「ちょっと待ってて」と、試作品を作り始めた。みんなで話し合って、D児のアイディアに賛同し、たくさんのたこ焼きを作った。

⑤ 焼く人、皿に載せる人、店でお金を受け取る人、運ぶ人など、じゃんけんしたり、順番に変わったりして役割が決まった。お客用のテーブルやいすなども用意され、たこ焼き屋を開店し、大盛況だった。

幼児の姿から『学びに向かう力』を読み取ると…

【意欲】	【話し合い】【目的の共有】	【振り返り、見通し】	【社会事象への関心】	【協力、充実感】
①みんなで遊びたいという気持ちが高まってお店屋さんをしようと気持ちを一つにした。	②自分なりに考えたことを、みんなに伝えることで、たこ焼き屋のイメージを共有した。	③遊びを進めるために、自分のしたいことやできそうなことを引き受けた。	④遊びを本物のように実現して楽しみたいという思いをもった。	⑤それぞれの役割を分担して遊びを進めた。

学びに向かう力

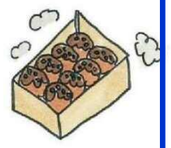
- 自分の気持ちを調整する力
- 粘り強く取り組んだり挑戦したりする力
- 仲間と協調する力

学びに向かう力を育むための手立て

環境の構成のポイント

「幼児が自由に選び活用できるように、イメージに合う材料・素材を整えましょう」

- ５歳児後半になると、以前に経験したことをきっかけにして、共通の目的をもって次の遊びを展開させることに意欲をもつようになります。行事の写真を飾る、昨年、年長児が作ったものを手に取ることができるように置く、などの環境を工夫し、経験したことを生かして新たな学びに向かおうとする幼児の発想が実現できるようにしましょう。
- 多様な教材、多様な材料から選ぶことができるようにしたり、多目的に活用できる用具を整えたりして、幼児が自分で考えを巡らせながら遊びに使っていくように準備しましょう。



保育者の関わりのポイント

「 幼児の主体性を十分に発揮して遊びが実現できるようにしましょう」

- この時期は、友達と一緒に共通の目的やイメージをもって遊ぶことに楽しさを感じる時期です。目的やイメージの共有には、幼児たちが自由に考え、遊びの中でやり取りが十分にできるゆとりのある生活の流れが欠かせません。
- 保育者が、介入する言動を控えめにすることに心掛け、幼児の発想を十分に引き出して遊びが楽しくなるようにしましょう。

家庭での関わりのポイント

「自分の目で見て、周りの様々なことに興味をもつことができるような体験を大切にしましょう」

- 園での出来事や、自分の思いや考えが話せるようなひとときをもつことで、よい聞き手になり、幼児の興味・関心を共有しましょう。
- 家庭での経験を園生活で伝え合うことから遊びが発展し、深い学びへとつながっていきます。お手伝いの機会を与えたり、会話しながらショッピングをしたりするなど、社会の様子にも目を向ける機会を設け、豊かな生活が経験できるように心掛けましょう。